

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 42.9%, 県 50.2%)

対県比

85.5%

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 60.2%
全国 66.0%

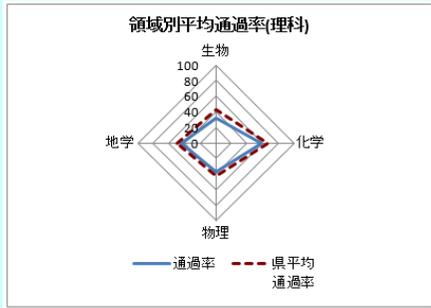
対全国比

91.2%

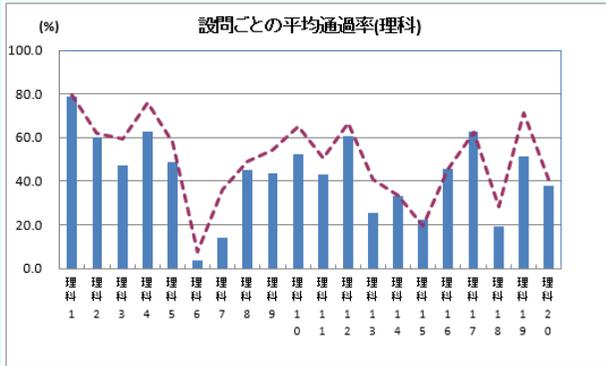
本年度の結果について

タイプⅠ, タイプⅡともに平均通過率が40%台前半と、非常に低い結果となっている。6の圧力に関する問題の正答率が全体的に低く、分野による定着度の差が明らかである。
また、「理科の授業が好きです。」が61.3%と低く、「学んだことを、ふだんの生活で使ったり、どのような場面で使えるか考えたりしている。」が69%であることから、授業での学習と生活との関連づけが十分でない。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校 50.2%
全国 53.0%
県 52.2%

重点課題

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

タイプⅠ, タイプⅡともに平均通過率が40%台前半であることから、基礎的・基本的な知識の定着が不十分である。

1の(2)や6の(3)のように知識を活用して、記述式で解答する設問の無答率が高いことから、知識を活用して、実験観察の結果と関連づけて説明することに課題がある。

【課題2】全国学力・学習状況調査

1(1), 2(1), 5(1)など自然事象についての知識・理解のが全体的に低く、全国平均70.5%, 県平均66.5%に対して、本校は63.0%であり、基礎・基本的な知識の習得が不十分であることがわかる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

日々の学習内容を確実に定着させていくために、コンスタントに家庭学習に取り組ませるようにすることや、帯学習として、小テストなどを実施することにより、基礎的・基本的な知識の定着をはかる。

さらに、授業の中で、課題解決型の学習を多く取り入れ、思考の過程を、段階を踏んで行うことで、結果との関連づけを的確に行うことができるようにしていくとともに、考察したことをしっかりと記述させたり、説明させたりすることで、表現力を育成していく。

また、常に身のまわりの生活との関連づけを意識して授業を進め、意欲の向上につなげていく。

【課題2】全国学力・学習状況調査

家庭学習の取り組みや授業前に小テストを行うことにより、基礎・基本的な知識の習得を確実にやっていく。また、その習得した知識を基に、課題発見学習を実施し既習事項と結果や考察が関連づけられるような授業を行っていく必要がある。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2学期中間試験				2年学年末試験	
目標値		50%				65%	
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2学期中間試験				2年学年末試験	
目標値		50%				65%	
実施後数値							